



水中出産が引き起こした新生児のレジオネラ症

米国において水中出産による新生児のレジオネラ症が発生した。その詳細が「水中出産後の新生児におけるレジオネラ症の2症例」[<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/66/wr/pdfs/mm6622a4.pdf>]に記載されているので紹介する。

レジオネラ症は発熱、筋肉痛、咳嗽、肺炎が特徴の重症疾患であり、しばしば致死的な経過を辿る。これはレジオネラ菌を含んだ小さな水滴を吸い込むことによって引き起こされる。2015年、米国では約6,000件のレジオネラ症が報告され、その約10%が死亡している。近年、アリゾナ州ではレジオネラ症の報告数が増加しており、2011年は46件、2015年は93件が報告された（100%以上の増加）。2011～2015年は生後1ヵ月未満の新生児でのレジオネラ症の報告は1件のみであったが、2016年の最初の4ヵ月で、2件が報告されている。2件とも自宅のバスタブでの出産（水中出産）であった。

【第1例】

2016年1月、最初の症例がマリコパ郡保健所に報告された。2016年1月6日に水道水が満たされた浴槽で助産婦による自宅出産があった。アプガースコア（10点満点）は1分および5分で、それぞれ5点および9点であった。翌日、新生児は重症呼吸困難、頻呼吸、低酸素にて地域の救急外来に搬入され、先天性心疾患と診断されて、小児病院に転送された。最初の胸部X線写真にて左下葉に融合性陰影がみられた。肺炎は除外されなかったものの、当初は無気肺と思われた。入院中の胸部X線写真は空洞病変を伴う両側肺浸潤影を示していた。その後、小児病院Bに転送され、気管支鏡が実施された。気管支肺胞洗浄液の培養でレジオネラ・ニューモフィラが検出され、CDCにて血清型1群と同定された。

アジスロマイシンの10日の治療が行われたが、2ヵ月以上の入院となった（これは主に先天性心疾患によるものであった）。

マリコパ郡保健所はレジオネラ症の原因を突き止めるために疫学的な調査を実施した。この調査によって、浴槽は新規に購入されていたが、出産直前に新しい飲水用ホースにて水道水が満たされる前に、酢と水で洗浄されていたことが明らかになった。母親は水槽に入ってから1時間以内に出産した。新生児の吸い込みは気づかれなかった。その他のレジオネラの伝播の危険因子は同定されなかった。

【第2例】

2016年4月18日、2番目の症例がマリコパ郡保健所に報告された。4月5日に新生児は別の助産婦にて自宅での水中出産にて生まれた。出産の3日後、38.3℃の発熱がみられ、翌日に再び発熱したため、病院Aの救急外来に搬入された。そこで39.2℃の発熱と胸部X線写真にて毛羽立ちのある小結節性陰影がみられ、新生児セプシスと肺炎疑いの治療のために入院となった。4月12日、上気道の分泌物と尿の検体が収集された。尿の抗原検査はレジオネラ・ニューモフィラ抗原が陽性であり、気道分泌物の培養でもレジオネラ・ニューモフィラが検出された。CDCにて血清型6群と同定された。患者はアジスロマイシンの10日の治療が開始され、4月16日に退院となった。

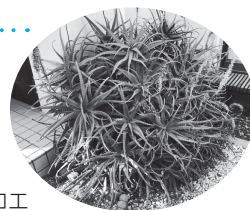
調査によって、水中出産はレンタルされたジェットジャグジー温水浴槽で行われたことが明らかとなった。出産の1週間前に、寝室におかれた浴槽に新規購入されたホースを用いて水道水が満たされ、36.7℃に維持されていた。母親は浴槽の外で産気づき、出産時のみに浴槽にはいった。新生児の吸い込みは気づかれなかった。

矢野邦夫

浜松医療センター 副院長
兼 感染症内科長
「ねころんで読める CDC ガイドライン（メディカ出版）」シリーズ等、CDC関連の編・訳書多数。

今月の矢野編集長

玄関横のアロエがどんどん大きくなっている。一部をカットしたいが、トゲトゲがあり、難しい。捨てるのも大変だ！ どうしよう。



大きく育ったアロエ